

今井 復活示す「銅」

杭州第19回
アジア大会

第6日



競泳200平

競泳女子で今年、久しぶりに世界選手権代表に返り咲いた今井が、パワースタートを図っている段階で迎えたアジア大会でも復活をアピールする結果を残した。200メートル平泳ぎで銅メダルを獲得。150メートル通過は4番手だったが、最後の50メートルで一つ

順位を上げ「今できるレースはできた」と納得していた。2016年リオデジャネイロ五輪に15歳で出場したスイマーは6年ぶ

女子200平泳ぎ決勝＝力泳する3位の今井月＝杭州（共同）

ハイライト

最後50メートルで挽回まだ進化途上

りに出場した7月の世界選手権（福岡市）で準決勝敗退に終わり、海外勢とのパワーの差を痛感。シーズン中に疲労などから体重が落ちてしまいがちなことを反省し、食事を増やそうとしている。食が細く苦労しているが、杭州入り後は選手村の「ピザがおいしくて」体重3キロ増に成功。狙った金メダルには届かなかったものの、泳ぎには一定の手応えを口にした。今後は体重だけでなく「筋量も増やしたい」とさらなる進化を目指す。（共同＝中嶋巧）

瀬戸 収穫のアジア大会



メダル2個「いいところ消えてない」【杭州共同】競泳男子の瀬戸大也（写真、CHARIS & Co.）が28日までに共同通信のインタビューに応じ、全レースを終えた杭州アジア大会の収穫や、来夏のパリ五輪への展望について語った。

「7月の世界選手権後に休養を取って迎えた今大会は個人メダル2個『いいところ消えてない』」ドレー2種目でメダルを獲得した。準備ができていない中で、最善はどう尽くしたらいいか、という状況だった。練習してなかったけど（400メートル）前半のタイムは世界選手権と変わらない。爆発力とか、いいところは消えてないというのは確認できた。

「モチベーションの低下に苦しんだ。『世界水泳で結果が出なくて、気持ち的にもダウンした。ここでオフを取って、アジア大会後に（来年に向けた強化を）スタートさせるのがいいと思った』」今後の強化方針は。「（力を）出し切る練習を積み上げていきたい。『練習をこなす練習』になってしまっていて、試合に向けた練習が全然できていないというのが、世界水泳の結果で見えた」

「五輪への勝負手は。（現状では）メダルを取れるか取れないかのラインにいる。金メダルを目指すなら、1%のチャンスをものししないと勝てない。（爆発力という）自分の得意なところを伸ばしていくことが金メダルには近い」

自転車日本勢 3種目で「金」

【杭州共同】杭州アジア大会第6日の28日、自転車の男子スプリント決勝で太田海也（日本競輪選手会）が中国選手を2-0で退け、チームスプリントとの2冠に輝いた。同オムニアムの窪木一茂（ブリヂストン）も快勝し、400メートル団体追い抜きとの2種目制覇を果たした。

女子マディソンでは内野艶和（楽天Kドリームス）垣田真穂（早大）組が優勝し、ともに4000メートル団体追い抜きに続く金メダルを獲得した。体操種目別では男子あん馬の津村涼太（鹿屋体大）と、女子段違い平行棒の芹田未果（筑波大）が2位に入った。

競泳の日本勢は女子800メートルリレーで2位になったほか、男子400メートルリレー、200メートル平泳ぎで男子の渡辺一平（トヨタ自動車）と女子の

平野 快勝発進



卓球女子シングルス2回戦＝プレーする平野美宇（共同）

卓球五輪代表争いリードのチャンス

卓球のパリ五輪シングルス代表男女各2枠を争う国内選考の対象となる女子シングルスで、選考ランキング2位の平野が白星発進した。速球でコースを巧みに突いてネパール選手を圧倒。「自分のプレートを発揮することを意識した」と納得顔だった。選考ポイントで僅差に迫る同3位の伊藤美誠（スターツ）が今大会に出ず、平野にとっ

脚の状態も悪くなく、しっかりコンディショニングは整っている。勝てるように頑張る。（共同）

「（現状では）メダルを取れるか取れないかのラインにいる。金メダルを目指すなら、1%のチャンスをものししないと勝てない。（爆発力という）自分の得意なところを伸ばしていくことが金メダルには近い」

女子複10代ペア 危なげない初戦

○卓球女子ダブルスで19歳の木原と15歳の張本美のペアは危なげなく初戦を突破した。モンゴルのペアに次々と強打を打ち込んで3-0で勝った。張本美は「序盤から自分たちのプレーをすることができて良かった」とうなずいた。昨年の世界ユース選手権19歳以下の部で優勝した期待のコンビ。順当なら準々決勝でメダルを懸けて中国ペアと当たる。（共同）